

【浜松版生活日本語コース プラスアルファ活動の提案に向けて】

公益財団法人浜松国際交流協会 嶋野 安沙美

今回、実践活動を行ってきた「浜松版生活日本語コース」は、1年を通して浜松市外国人学習支援センター（以下：U-ToC）で、日本語を学習するカリキュムとなっている。このコース含め、すべての教室が、年度末に向け一つの区切りに向かって進んでいる。

最初に、実践テーマの理由は、様々な背景や経験のある日本語教師の方々、コーディネーターの方々と一緒に教室運営をしているなかで、自分が新任だからこそ出せるアイデアがあるのではないかと考えたからである。この実践活動期間の中だけで、自分のアイデアを出し成果を出すことは難しかったが、外部講師、コーディネーターのみなさんから出る、学習者のためを考えた授業内外のアイデアの数に、常に驚かされ学びになっている。

実践活動を行っていくにあたり、「常に学習者を気にかける」ことを意識した。頭で分かっているにもかかわらず行動に移すことは大変だった。ここでまず理解できたことは、「日本語教室が学習者の居場所だ」という言葉の意味である。言葉の通り、家・職場以外の居場所だということが頭では分かっていたが、具体的に自分の頭の中で言語化することができていなかった。学習者の姿を見ていて、学習者にとって日本語教室が、「社会の一員として存在できる場所」となっていることはもちろんだが、教室で、同じ言語を使用する学習者、同じルーツを持つ学習者と出会うことが、少しでも日本での生活において、教室が「安心できる場所」になっていることが分かった。日本語教室を運営している立場上、教室に来た学習者に日本語や日本でのルールなどを習得してもらうということは、もちろん一番に大切だが、教室を運営・継続し、学習者にとって「居場所」をなくさないこともコーディネーターにとって、大切な役割であると気が付いた。

実践活動の中で、コーディネーターがどんな立場であるか、何を求められているかを言語化していくなかで、以前より役割を理解することができた。具体的に何か成果を出さなければと思って実践活動を考えていたが、実際に学習者と話したり様子を見たりして、様々な意味での「仕組みを作るため」のコーディネーター活動が大切であると感じた。

教室に携わっている、外部講師・ボランティア・コーディネーターが、学習者のため、教室がよくなるために活動に取り組んでいることもよく知ることができたので、これを継続するために、たくさん人の声を聞けるようにしたい。さらに、日々の業務を通してどんな活動が学習者のためになるのか、すべてにおいて意味を持った活動を行えるようにしたい。

次ページに、実践について詳細を記載する。

【実践内容について】

月(タイミング)	実施内容、考察等
10月	<p><u>学習者へ「目標」をアンケート形式で聞き取り</u></p> <p>→クラスの学習者へ日本語学習の目標などをアンケートにして聞き取りをした。学習者が書いたものを、コーディネーター・外部講師にも共有。授業作りや、学習者との会話のきっかけとなったという意見をいただいた。</p> <p>○内容を精査、共有し、次回以降も実施できるよう提案したい。アンケート内容は今回実施したもので良かったのか、他に聞きたいことはあるか、などクラスや学習者の状況によって聞きたいことも違うのではないかと。そのクラス、タイミングにあったアンケートができるよう工夫していきたい。</p>
12月	<p><u>授業の一環として、ボランティアさんたちが実施しているイベントに全員で参加させていただいた(内容は授業、イベントともに「防災」について)</u></p> <p>→「おしゃべりタイム」というイベントで、U-ToCで活動するボランティア団体の有志(日本語ボランティア養成講座修了生)が企画運営するイベント。日本文化体験イベントを通して、日本語教室学習者と交流することを目的に開催してくださっている。ボランティアさんたちから、イベントの声掛けがあり、教室全員で参加した。</p> <p>○学習者は、ボランティアの方たちに積極的に日本語で質問をしたり、話を聞いたりし、いつもの授業と違う活動に満足していた。普段の日本語の授業では教師や学習者同士だけで会話する時間がほとんどであり、お互いに言いたいことを汲みとろうとする体制ができている。これも大切なことだが、教師や学習者以外の人と日本語で交流する時間の大切さが見えた。</p> <p>今後の「おしゃべりタイム」イベント開催の際にも、学習者に積極的にアナウンスをし、学んだ日本語を授業外で使用できるようにしてもらいたい。</p>
★常に、...	<p><u>学習者と、授業時間以外にもたくさん会話をするように心掛けた</u></p> <p>○日々の業務に加え、この実践課題を行っていくことをきっかけに、以前よりも学習者と会話することの大切さに気付くことができた。</p> <p>学習者は、日が経つにつれて色々なことを話してくれるようになった。「面談」という時間も、お互いに緊張感を持って話す大事な時間であり必要だと感じたが、休み時間の声掛けでは、休みの日に行った場所、学習者同士で過ごした日の話など、たくさん話すきっかけがあることが分かった。今後も、学習者への声掛け、様子を気にすることは継続しなければならない。</p>